

トルコとサンパウロの地滑り

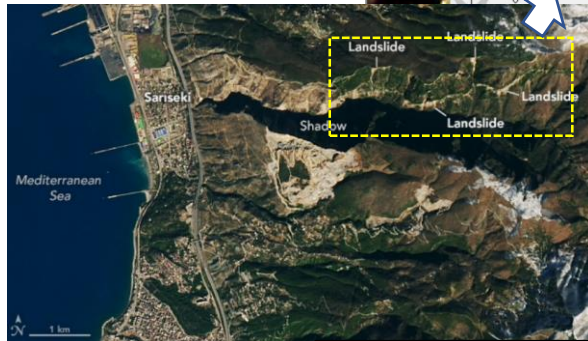
YACかわら版349「イベラ国立公園」は、NASAの地球観測所 (earthobservatory) サイトを紹介しました。そのサイトの2月24日版は「トルコの地滑り」でした。サイトでは「Landslides」と表記していますが、ここでは「地滑り」にがけ崩れや土石流なども含め、広義の「地滑り」とし土砂災害も含みましょう。前半は地震による「地滑り」、後半は大雨によるサンパウロの「地滑り」を取上げます。

NASAの「トルコの地滑り」は、ランドサット9が観測した2022年2月11日と、2023年2月14日とのデータを比較して、地震による地滑り個所を説明しています。

2月14日若田宇宙飛行士達の第68次長期滞在クルーが1150ミリ望遠レンズを取り付けたニコンデジタルカメラで撮影しました。約400kmの高度からの撮影です。



センチネル2月24日観測データをEOブラウザで3D化



「トルコの地滑り」を読みながら、千歳空港の東の厚真町の自然災害伝承碑をおもい出します。テレビ画面や新聞紙面でなく、アクティブに衛星データをダウンロードしてパソコン画面で、山々の土砂崩れ(どしゃくずれ)の広がりや被害の大きさを実感することがあります。

センチネル2018年10月20日観測データをEOブラウザで3D化



平成30年(2018)9月6日午前3時7分、マグニチュード6.7の北海道胆振(いぶり)東部地震が発生した。厚真町(あつま)では、北海道観測史上初の震度7の地震により、明治以降最大規模の山腹崩壊(ほうかい)や人里を襲うかつてないほどの土砂災害が発生し、37名の尊い命が奪われた。石碑の外輪は地震発生時刻を示す時計を模し、太陽をイメージした黒い円盤には、反射によってお参りした人々の「想い」が投影される。

平成30年北海道胆振東部地震厚真町慰霊碑



センチネル2 2018年10月20日 2017年9月5日



厚幌ダム湖 (あっぱろ)

42.7698, 141.9973

サンパウロの地滑り

「2月17日～2月25日の期間でブラジルのリオデジャネイロや各地で完全復活のカーニバルが始まり...」というニュースに、日本での春の訪れを感じていましたが、海岸の山に囲まれた地域ではカーニバル休日週末に24時間降雨量が600ミリを超えたといひます。大雨で大規模な地滑りや洪水が発生し、多くの方が亡くなり多くの被害があったと報じるようになりました。

2月25日にはサンパウロ周辺のセンチネル2の観測がありました。大雨の被害の様子が衛星データでも確認できます。サンパウロ近郊の海水浴場で有名なプライア・プレッタ・ダ・コスタ・スル周辺の山をみておどろきました。日本の「平成30年7月豪雨」後の山々と同じ光景です。(2018年7月5日～7日)

「平成30年7月豪雨」 呉市安浦町中畑の水害の碑を例に

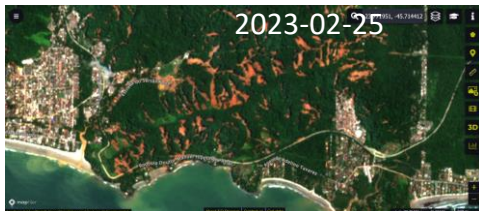
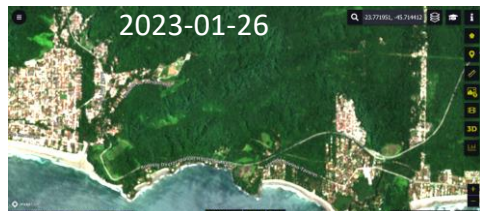
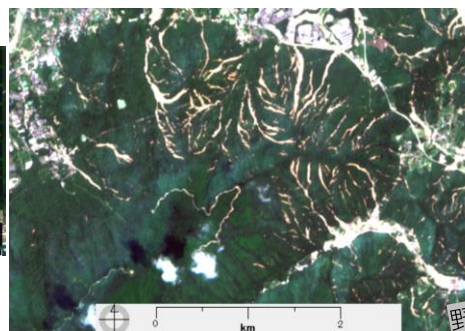
気象庁「平成30年7月豪雨（前線及び台風第7号による大雨等）平成30年(2018年)6月28日～7月8日」の概要一部転記

6月28日から7月8日までの総降水量が四国地方で1800ミリ、東海地方で1200ミリを超えるところがあるなど、7月の月降水量平年値の2～4倍となる大雨となったところがあった。また、九州北部、四国、中国、近畿、東海、北海道地方の多くの観測地点で24、48、72時間降水量の値が観測史上第1位となるなど、広い範囲における長時間の記録的な大雨となった。この大雨について、岐阜県、京都府、兵庫県、岡山県、鳥取県、広島県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県の1府10県に特別警報を発表し、最大限の警戒を呼びかけた。

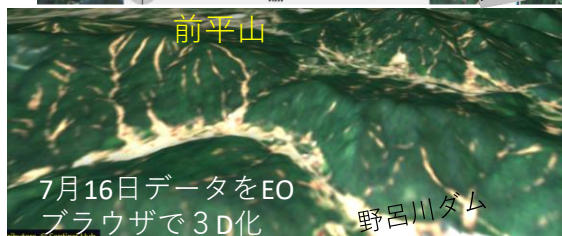
<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/2018/20180713/20180713.html>

センチネル2 2018年7月16日

2018年6月1日



高温が続き、雨が降らないため土地が乾燥して山火事が次々に発生している地域と、気候変動で、豪雨が発生する地域があります。久しぶりのカーニバルも中止された地域もありました。右下は、植物の生き生き度を表現する呉市安浦町中畑周辺のフォルスカラー画像です。



平成30年（2018）7月豪雨では、安浦町の山間部の至るところで土石流が発生し、町内の中畑・下垣内地区では4名の犠牲者が出たほか、集落や田畑へ大量の土砂や流木が流れ込み、集落へ至る道路も寸断された。

